

平成24年5月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,914	8,259	4,147	4,112	8	△ 3
2 千 石	3,341	6,585	3,312	3,273	45	43
3 内 山	4,839	7,040	3,756	3,284	16	3
4 大 和	3,271	6,770	3,409	3,361	89	138
5 上 野	7,297	15,531	7,563	7,968	68	86
6 高 見	6,318	12,407	5,973	6,434	41	51
7 春 岡	6,213	10,114	5,392	4,722	28	34
8 田 代	11,158	21,345	10,263	11,082	64	134
9 東 山	9,582	18,499	9,048	9,451	84	161
10 見 付	4,341	8,234	4,089	4,145	82	142
11 星ヶ丘	3,417	6,664	2,995	3,669	29	54
12 自由ヶ丘	3,231	6,962	3,144	3,818	4	16
13 富士見台	6,408	15,740	7,258	8,482	27	31
14 宮 根	3,705	8,514	4,038	4,476	△ 3	4
15 千代田橋	3,651	8,781	4,099	4,682	16	14
千 種 区 計	81,686	161,445	78,486	82,959	598	908
H23.5.1	81,118	160,894	78,288	82,606	501	660
対 前 年 比	568	551	198	353	97	248
名 古 屋 市	1,034,703	2,267,048	1,116,588	1,150,460	4,548	5,671
愛 知 県 (H24.4.1)	2,969,372	7,414,863	3,702,340	3,712,523	5,861	△ 6,083

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	88	112	△ 24	2,315	1,383	932

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

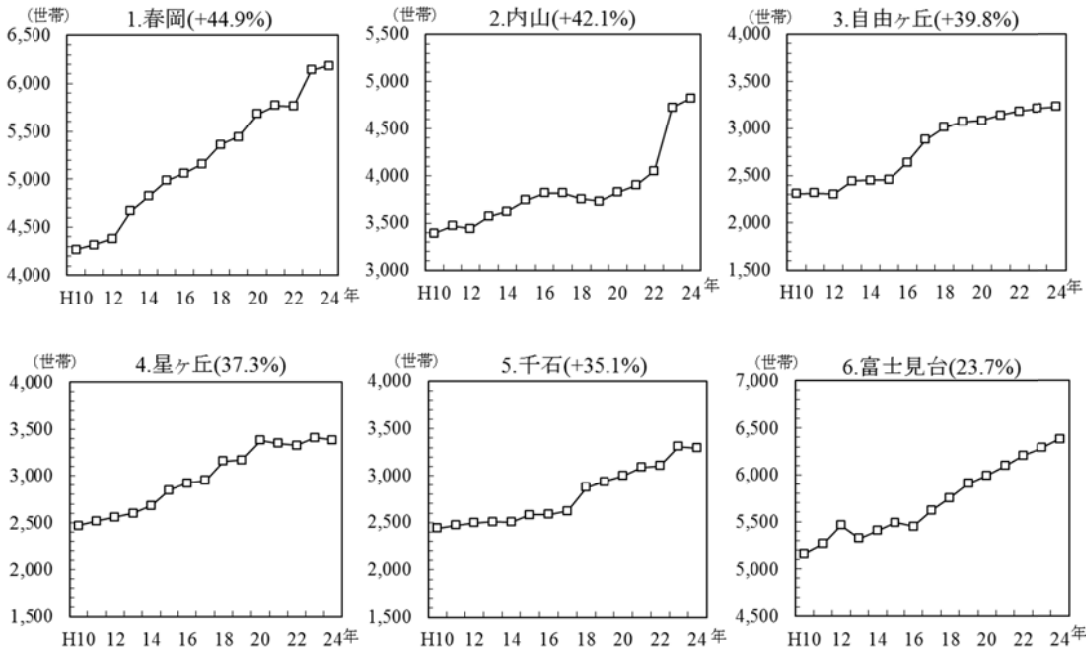
(注意) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動数を加減しています。

平成 24 年千種区の世帯数と人口増減の概況

平成 24 年 5 月 1 日現在の千種区の人口は 908 人増の 161,445 人となっており、世帯数は 598 世帯増の 81,686 世帯となっています。今回は千種区の世帯数と人口増減の内訳を学区単位で見たいと思います。

千種区の世帯増加率は 22.1%で、名古屋市全体の世帯増加率（19.2%）を上回っています（対平成 10 年比）。また、

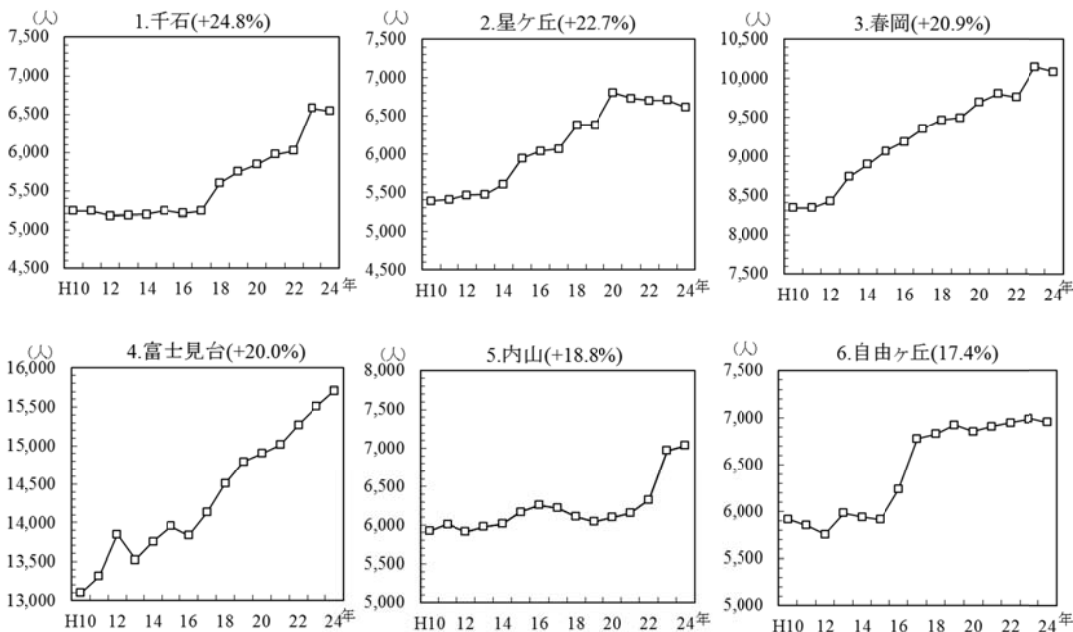
図1: 千種区の学区別世帯増加率上位6学区（対平成10年比）



名古屋市内全 16 区を世帯増加率が大きい順に並べると第 1 位は中区、第 2 位は東区、第 3 位は緑区と続き、千種区は第 6 位です。千種区の学区別世帯増加率を大きい順に並べると、春岡、内山、自由ヶ丘、星ヶ丘、千石および富士見台学区の順になります(図 1)。

千種区の人口増加率は 9.3%で、名古屋市全体の人口増加率（5.2%）を上回っています（対平成 10 年比）。また、名古屋市内全 16 区を

図2: 千種区の学区別人口増加率上位6学区（対平成10年比）



人口増加率が大きい順に並べると第 1 位は中区、第 2 位は緑区、第 3 位は東区と続き、千種区は第 5 位です。千種区の学区別人口増加率を大きい順に並べると、千石、星ヶ丘、春岡、富士見台、内山および自由ヶ丘の順になります(図 2)。